

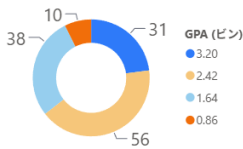
2025年度 卒業生アンケート 集計結果(概要)

- ◆ 調査実施日 : 2026年3月20日(卒業式後)～3月31日
- ◆ 実施方式 : manabaのアンケート機能を利用
- ◆ 回収率 : 96.3% (2024年度 95.5%)
- ◆ 回収枚数(有効数) : 130 (卒業生数:135) FB(BS):43 AB:43 MB:25 臨床:19

※2018年度以降の各学科別の集計値には臨床コースは含んでいない。 ※各設問の結果(割合)は、無回答者を除く
臨床コースは独立して集計

※GPAは4階層に区分

	表記	GPA範囲
成績上位	3.20	3.20 ≤ 本人のGPA
成績中上位	2.42	2.42 ≤ 本人のGPA < 3.20
成績中下位	1.64	1.64 ≤ 本人のGPA < 2.42
成績下位	0.86	本人のGPA < 1.64

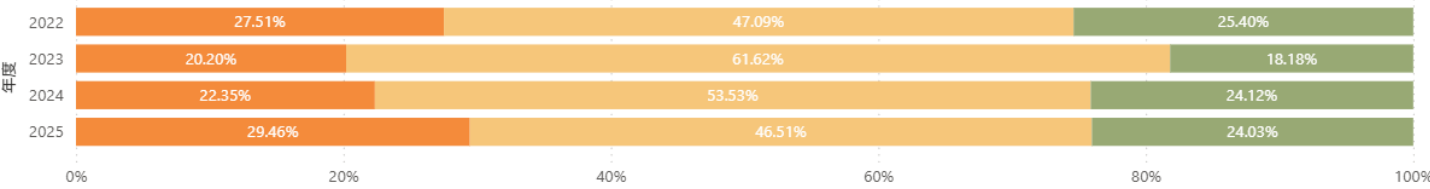


2025年度の階層別人数

問1. みなさんの大学入学から卒業までの、学習成果についてお聞きます。

問1-1. 学位授与方針(DP)は知っていましたか？

値 ● 1.内容を知っていた ● 2.あることは知っていた ● 3.あることを知らなかった



問1-1について

「内容を知っていた」が29.46%、「あることは知っていた」が46.51%、「あることを知らなかった」が24.03%でした。DPを何らかの形で認知している学生は75%を超えており、多くの学生が学位授与方針の存在を把握していたことがうかがえます。一方で、約4人に1人はDPを知らなかったと回答しており、さらなる周知が課題です。

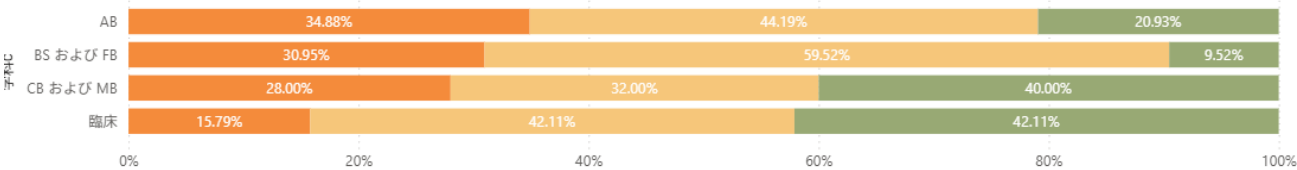
GPAとの関係では、「あることは知っていた」層の平均GPAが2.82と最も高く、「知らなかった」層は2.43と低めでした。ただし、「内容を知っていた」層は2.66であり、認知度とGPAが単純に比例しているとは言えません。学科コース別では、FB(BS)は未認知が9.52%と低く、認知度が高い一方、MBは40.0%、臨床は42.11%と未認知の割合が高くなっています。

過年度比較では、「内容を知っていた」が2023年度20.20%、2024年度22.35%から2025年度29.46%へ上昇しており、認知の深まりが見られます。

解説中の補足 PICKUP

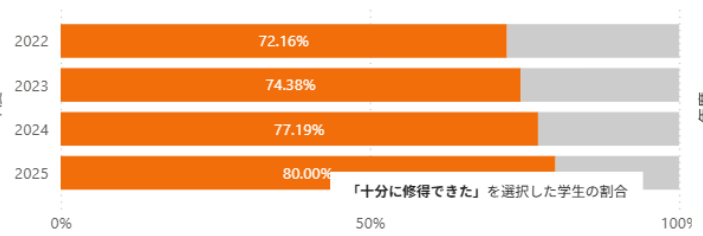
学科別(2025年度)

値 ● 1.内容を知っていた ● 2.あることは知っていた ● 3.あることを知らなかった

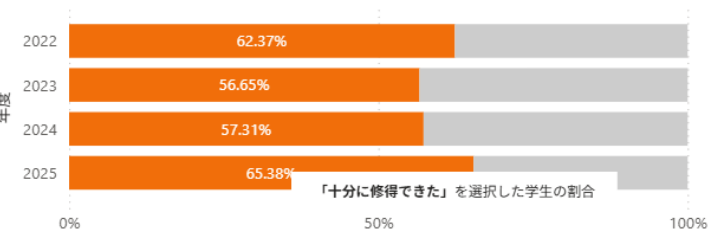


問1-2. 大学を卒業するにあたり、学位授与方針(DP)に明示されている能力（認識・知識）は、十分に修得することができたと思いますか？ ※「十分に修得できた」場合のみチェック

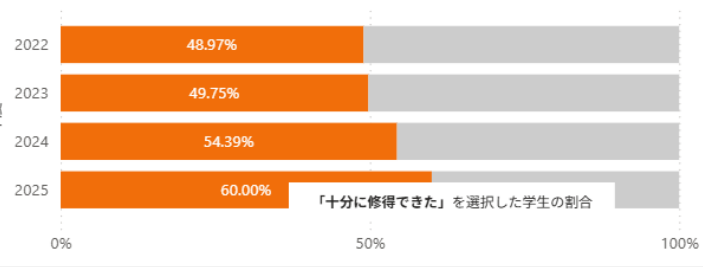
問1-2(1) バイオサイエンス分野の専門知識と技術



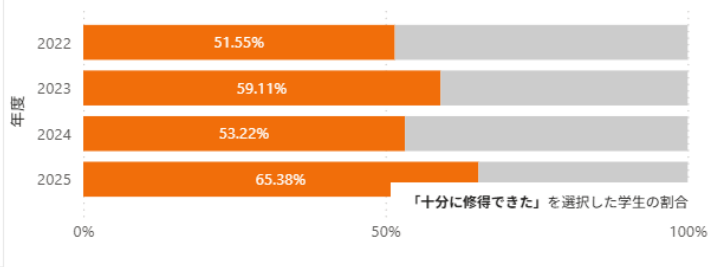
問1-2(4) 生命の尊厳と倫理観、地球環境への洞察力



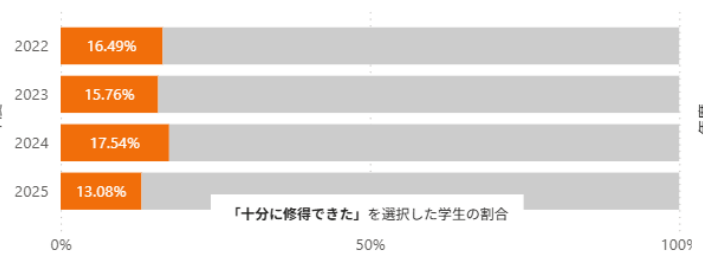
問1-2(2) 情報解析力



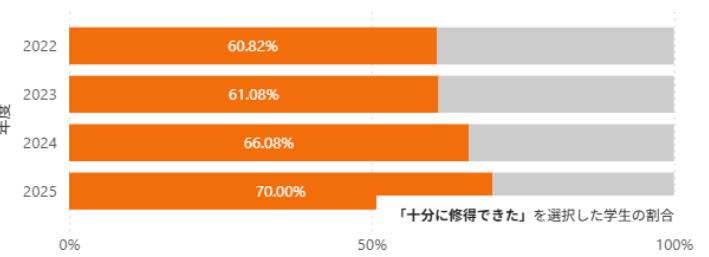
問1-2(5) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力



問1-2(3) 国際化に対応できる語学力



問1-2(6) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力



問1-2について

全体として、2025年度も、専門知識や協働性、主体的思考力の修得実感は高く、語学力の修得実感は低いという傾向が見られます。この傾向は過年度と大きく変わらず、本学の教育成果として実践的・専門的な学びが強く認識されている一方、語学力については継続的な課題であると考えられます。

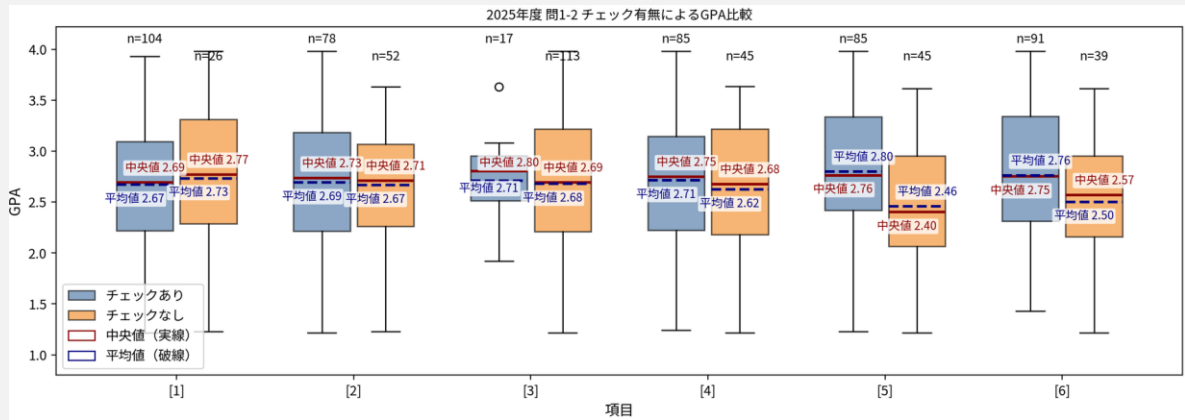
最も高かったのは、[1]「バイオサイエンス分野の専門知識と技術」で、80.0%の学生が十分に修得できたと回答しました。これは、本学の専門教育や実験・実習、卒業研究などが学生の専門的な学びに結びついていることを示しています。

次いで、[6]「協働行動力」が70.0%、[4]「生命倫理・環境洞察力」と[5]「主体的思考力」がともに65.38%となっており、実践的な学びや研究活動を通じて成長がうかがえます。

一方で、[3]「語学力」は13.08%にとどまり、他項目と比べて大きく低い結果でした。国際化対応の観点から、語学力の修得実感を高める取り組みは引き続き課題といえます。

GPAとの関連

[5]「主体的思考力」を修得できたと回答した学生の平均GPAが2.80と最も高く、[6]「協働行動力」も2.76と高めでした。特に[5]と[6]では、チェックしていない学生よりも平均GPAが高く、**学業成績が良好な学生ほど、主体性や協働性の修得を実感している傾向が見られます。**



学科コース別の特徴

AB・FB・MBで[1]専門知識の修得率が高く、特にMBは92.0%、ABは88.4%でした。

一方、臨床は[1]が52.6%、[2]情報解析力が26.3%、[4]生命倫理・環境洞察力が42.1%と、複数項目で他コースより低めです。

また、語学力は全体的に低いものの、FBは23.8%で相対的に高く、MBは4.0%、臨床は5.3%と低くなっています。

過年度との比較

2024年度から2025年度にかけて、[1]専門知識は77.2%→80.0%、[2]情報解析力は54.4%→60.0%、[5]主体的思考力は53.2%→65.4%、[6]協働行動力は66.1%→70.0%と、多くの項目で改善が見られます。

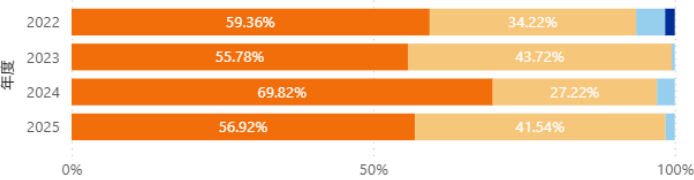
一方、[3]語学力は17.5%→13.1%に低下しており、引き続き重点的に確認すべき項目です。

問1-3. バイオ大学の入学から卒業までの教育課程は、学位授与方針(DP)に明示されている能力を修得するにあたって十分な内容でしたか？

※4段階評価(大いに思う/少し思う/あまりそう思わない/そう思わない)

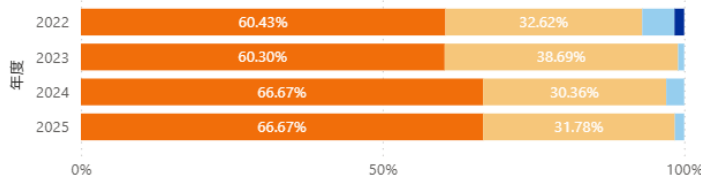
問1-3(1) バイオサイエンス分野の専門知識と技術

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



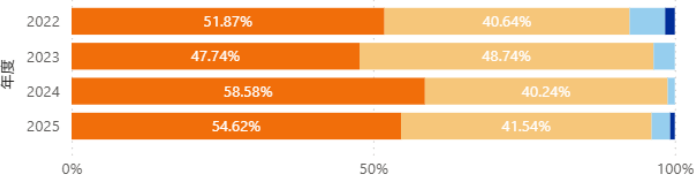
問1-3(4) 生命への尊厳と倫理観、地球環境への洞察力

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



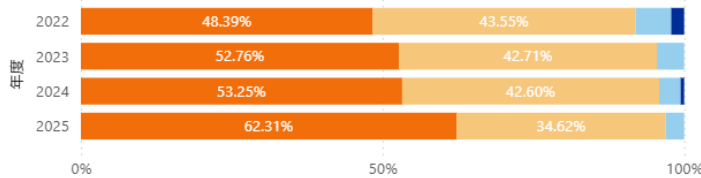
問1-3(2) 情報解析力

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



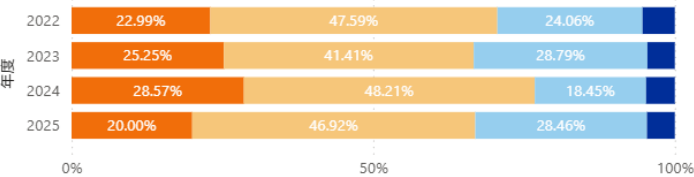
問1-3(5) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



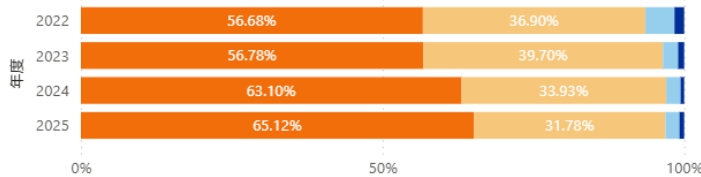
問1-3(3) 国際化に対応できる語学力

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



問1-3(6) 他社と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力

選択した人の割合 ● 4.そう思わない ● 3.あまりそう思わない ● 2.少し思う ● 1.大いに思う



問1-3について

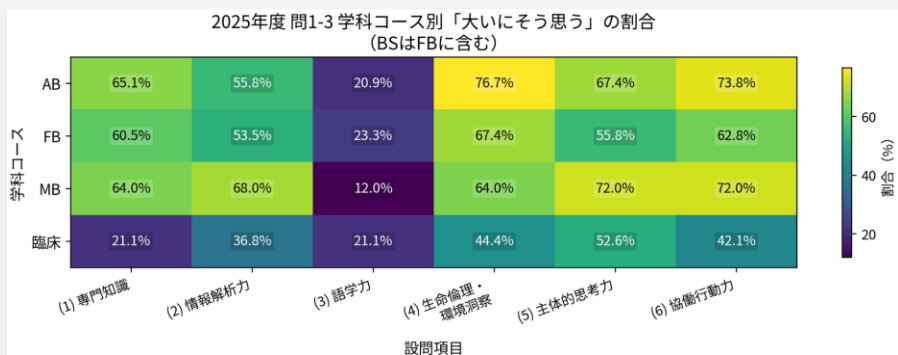
全体として、「1.大いに思う」「2.少し思う」が大半を占めており、教育課程に対する肯定的な評価が多く見られました。特に、(4)「生命倫理と環境洞察」、(6)「協働行動力」、(5)「主体的思考力」は「大いに思う」が6割を超えており、高い評価を得ています。一方で、(3)「語学力」は「大いに思う」が20.00%にとどまり、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が33.1%となっており、過年度と同様に継続的な課題であると考えられます。

【GPAとの関係】

GPAとの関係では、(1)「専門知識と技術」、(5)「主体的思考力」、(6)「協働行動力」において、「大いに思う」と回答した学生の平均GPAが比較的高い傾向が見られました。特に(1)では「大いに思う」層が2.78、「少し思う」層が2.55であり、教育課程への評価と学修成果が一定程度結びついている可能性があります。一方、(2)や(4)では大きな差は見られず、GPA以外の要因も影響していると考えられます。

【学科コース別の特徴】

学科コース別では、AB・FB・MBで(1)「専門知識と技術」の評価が高く、ABは(4)「生命倫理・環境洞察」、(6)「協働行動力」も高評価でした。MBも(5)「主体的思考力」、(6)「協働行動力」が高く、実践的・主体的な学びへの評価が見られます。一方、臨床では(1)「専門知識と技術」の「大いに思う」が21.1%にとどまり、肯定的ではあるものの強い肯定はやや控えめです。また、語学力は全体的に低く、特にMBでは否定的評価が高めでした。



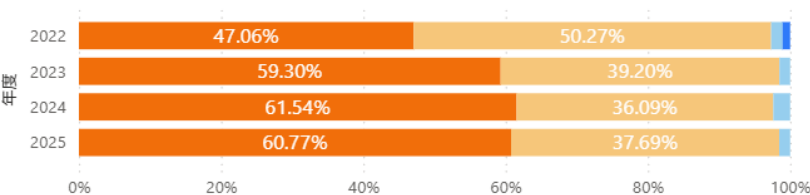
【過年度との比較での留意点】

過年度と比較すると、(5)「主体的思考力」は2024年度53.25%から2025年度62.31%へ上昇し、(6)「協働行動力」も微増しています。一方、(3)「語学力」は2024年度28.57%から2025年度20.00%へ低下しており、課題が継続しています。

問2. 本学のカリキュラム・授業について、あなたはどの程度満足しましたか？

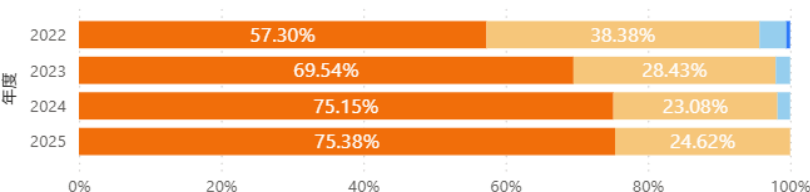
問2(1) 講義科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



問2(2) 実験・実習科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満

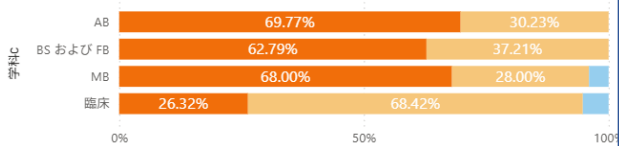


PICKUP

学科・コース別 満足度 (2025年度)

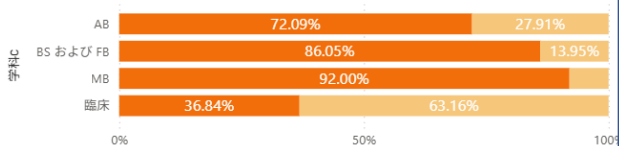
問2(1) 講義科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満



問2(2) 実験・実習科目の満足度

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足



問2について

講義科目は「満足」が60.77%、「やや満足」が37.69%で、肯定的評価は98.46%でした。実験・実習科目は「満足」が75.39%、「やや満足」が24.62%で、否定的回答はなく、講義科目以上に高い満足度が示されています。特に本学の実験・実習を中心とした実践的な教育への評価が高いことがうかがえます。

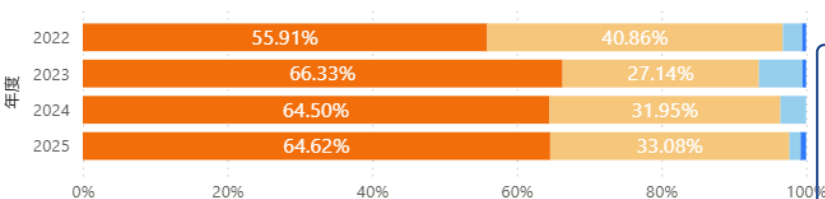
GPAとの関係では、講義科目で「満足」と回答した学生の平均GPAは2.75、「やや満足」は2.59、「やや不満」は2.24でした。実験・実習科目でも「満足」層は2.72、「やや満足」層は2.57であり、満足度が高い学生ほどGPAもやや高い傾向が見られます。

学科コース別では、講義科目はAB・FB・MBで「満足」が6割を超える一方、臨床は26.32%にとどまり、「やや満足」が中心でした。実験・実習科目ではMBが92.00%、FBが86.05%と特に高く、臨床は36.8%と相対的に低めです。

問3. 教員の授業への取り組みについて、あなたはどの程度満足しましたか？

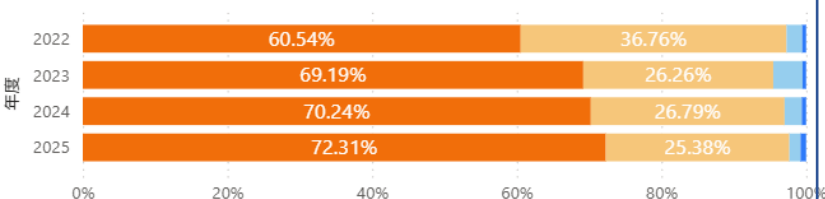
問3(1) 教員の授業に対する創意工夫

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



問3(2) 教材・研究等の準備

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満

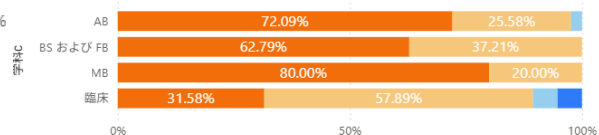


PICKUP

学科・コース別 満足度 (2025年度)

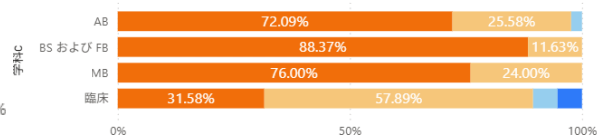
問3(1) 教員の授業に対する創意工夫

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



問3(2) 教材・研究等の準備

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満

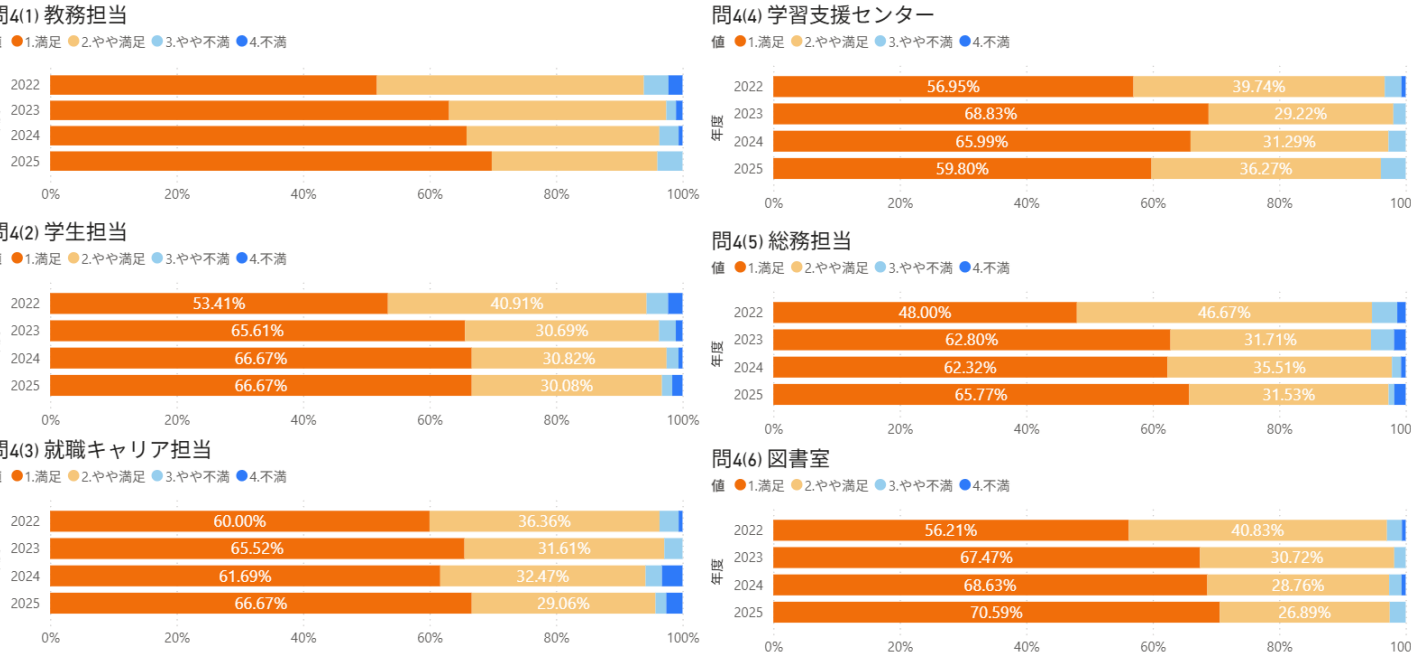


問3について

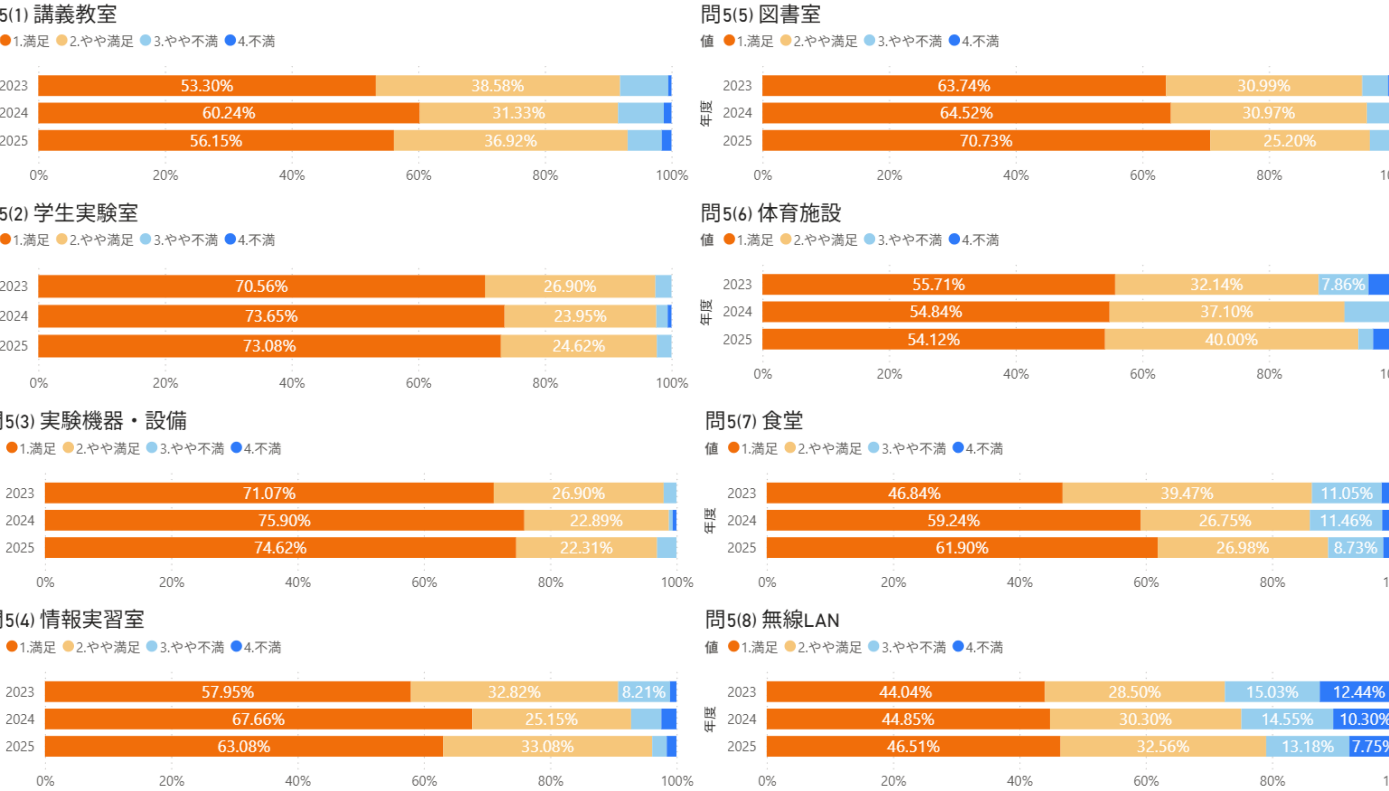
問3(1)「教員の授業に対する熱意・工夫」、問3(2)「教材研究等の準備」のいずれも肯定的な評価が大半を占めており、教員の授業への取り組みは全体として高く評価されています。特に、教材研究等の準備については「満足」の割合がより高く、授業内容や教材準備に対する学生の評価が安定していることがうかがえます。一方で、少数ではあるものの「やや不満」も見られるため、授業方法や準備内容について継続的な改善を進める余地もあります。

学科コース別では、問3(1)はMBの「満足」が80.00%、ABが72.09%と高く、問3(2)ではFBが88.37%、MBが76.00%と高評価でした。一方、臨床は両項目とも「満足」が31.58%にとどまり、「やや満足」が中心となっています。

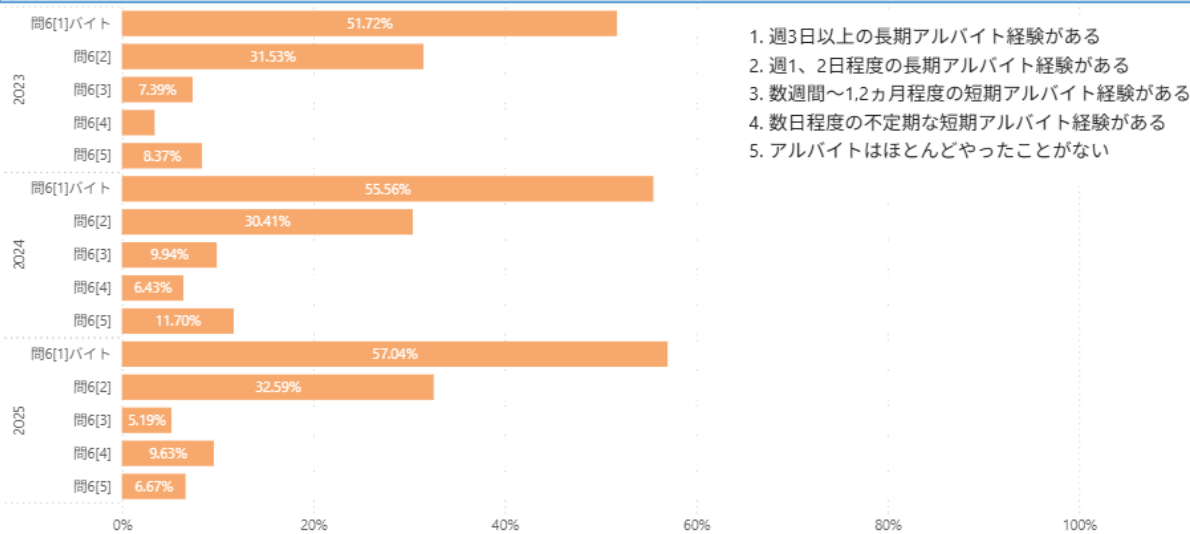
問4. 事務室では様々な学生支援をしています。窓口の対応の仕方を含め、あなたはどの程度満足しましたか？



問5. 本学施設や設備について、あなたの感想を聞かせてください。



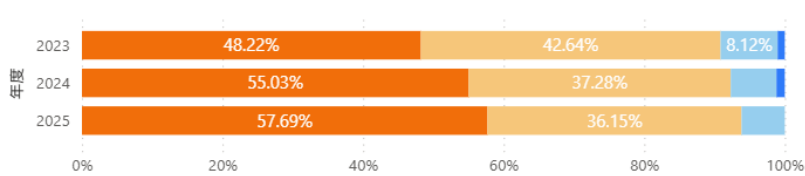
問6. 在学中のアルバイト経験



問7. 大学生活や大学について

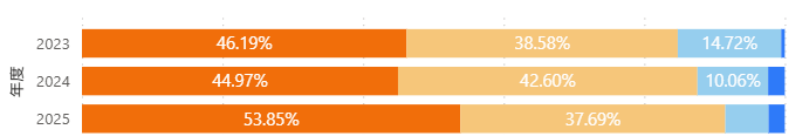
問7(1)大学の教員と良い関係を築くことができた

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない



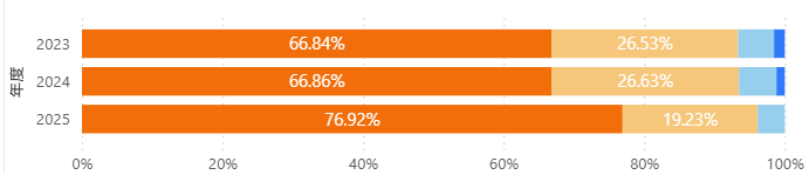
問7(2)大学の職員と良い関係を築くことができた

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない



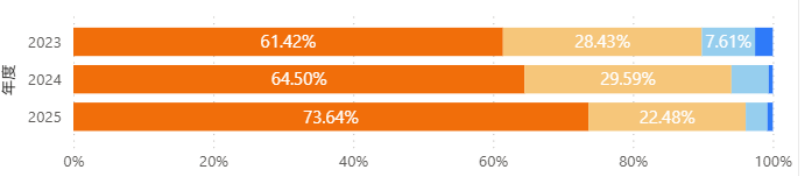
問7(3)大学の友人と良い関係を築くことができた

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない



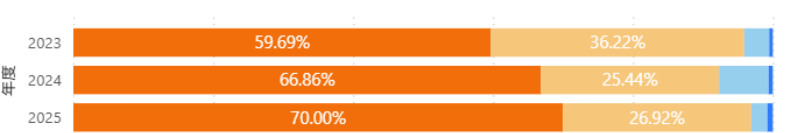
問7(4)研究室のメンバーと良い関係を築くことができた

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない



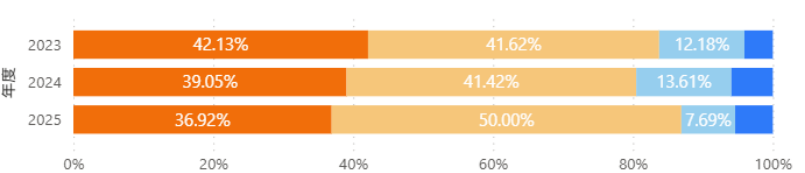
問7(5)大学での生活に満足できた

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない

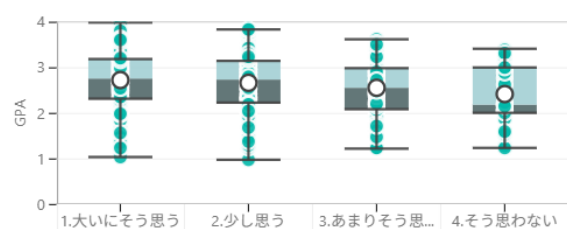
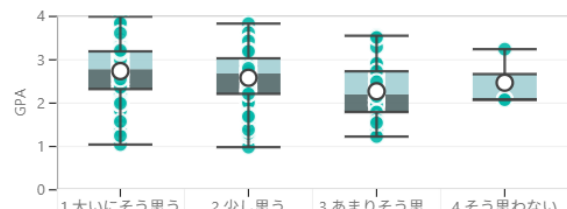
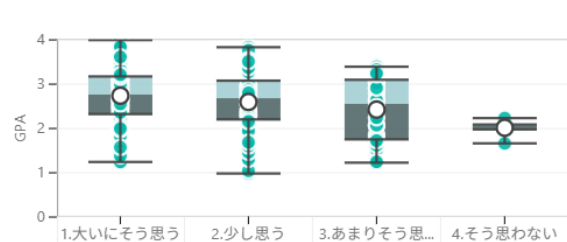
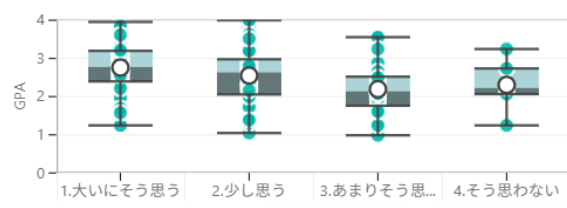
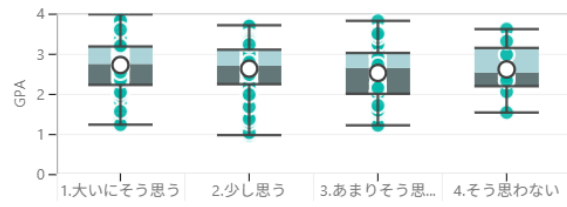
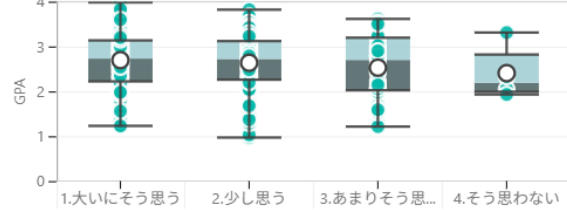


問7(6)後輩・知人・友人等に長浜バイオ大学への入学を勧めたい

値 1.大いにそう思う 2.少し思う 3.あまりそう思わない 4.そう思わない



問7(1)-(6)とGPAの関係(2025年度のみ)



問7について 【AIによる解説】

【全体傾向】

大学生活における人間関係や学生生活満足度について、全体として肯定的な評価が多く見られました。特に、(3)「大学の友人との関係」、(4)「研究室メンバーとの関係」、(5)「学生生活満足度」は「大いにそう思う」の割合が高く、**学生同士や研究室内での関係性が、大学生活の充実感につながっていることがうかがえます**。また、(1)教員、(2)職員との関係も「大いにそう思う」「少し思う」を合わせると9割前後となっており、**教職員との距離の近さや支援体制も一定程度評価**されています。

一方で、(6)「後輩・知人・友人等に本学への入学を勧めたい(推奨意向)」は、「大いにそう思う」が36.92%にとどまり、他項目と比べると強い肯定はやや控えめです。ただし、「少し思う」を含めた肯定的評価は86.92%であり、否定的な評価が多いというより、積極的に勧める段階までは至っていない学生も一定数いると考えられます。

総じて、(5)学生生活満足度や人間関係に対する評価は高く、大学生活そのものは良好に受け止められています。一方で、本学への(6)推奨意向は他項目に比べてやや控えめであり、**満足度の高さがそのまま(6)推奨意向につながっているわけではない点が注意が必要です**。推奨意向には人間関係だけでなく、進路実績、大学ブランド、教育内容への納得感、施設・立地など、別の要因も関わっていると考えられます。
また、推奨意向が低下傾向にある点は、本学の学生募集・教育・ブランド・進路支援等に関わる重要な課題とも言えます。

【GPAとの関係】

各項目で「大いにそう思う」と回答した学生の平均GPAはおおむね高めでした。特に(6)では、「大いにそう思う」層の平均GPAが2.86で、「少し思う」層の2.59を上回っています。また、(4)研究室メンバーとの関係では「大いにそう思う」層が2.78、(5)学生生活満足度では2.76であり、大学生活への充実感と学修成果には一定の関連がある可能性があります。

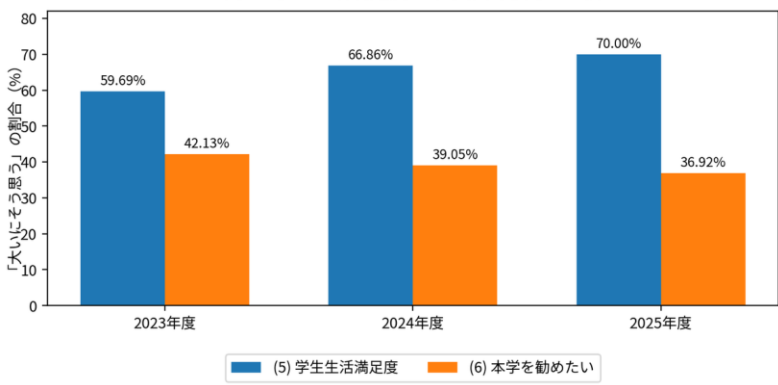
【学科コース別】

AB・FB・MBはいずれも多く多くの項目で肯定的評価が高く、特にMBは友人関係や研究室メンバーとの関係で「大いにそう思う」が高めでした。臨床は、友人関係や研究室メンバーとの関係では高い評価が見られる一方、(6)本学への推奨意向では肯定的評価が63.16%にとどまり、他コースより低い点が特徴です。

【過年度比較】

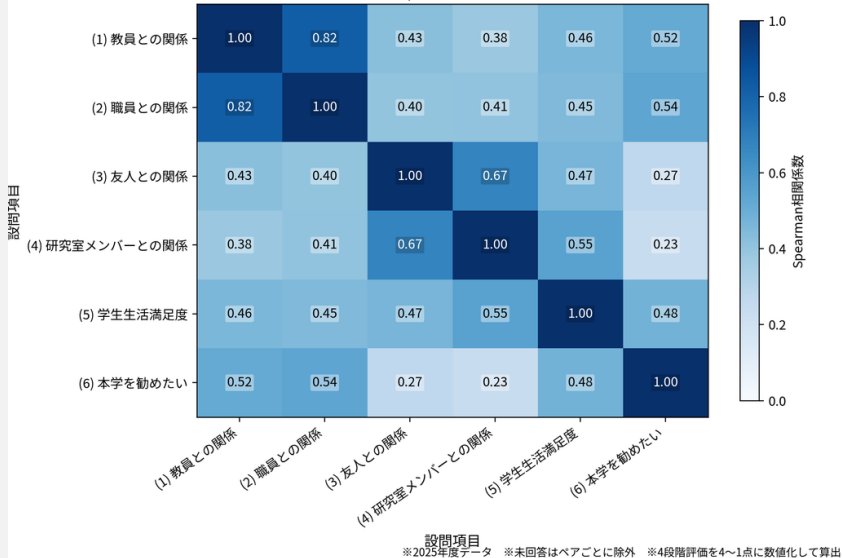
(3)友人関係、(4)研究室メンバーとの関係、(5)学生生活満足度は、2024年度から2025年度にかけて「大いにそう思う」が上昇しており、学生生活面の評価は改善傾向にあります。一方、**(6)本学への推奨意向は2023年度42.13%、2024年度39.05%、2025年度36.92%と「大いにそう思う」が低下傾向**にあります。年度比較では回答者数や学科構成の違いに注意しつつ、満足度と推奨意向の差を継続的に確認する必要があります。

問7：学生生活満足度と本学推奨意向の比較



【各設問間の関係性】

2025年度 問7 Spearman相関ヒートマップ



問7(1)～(6)のSpearman相関を見ると、最も強い関連が見られたのは、(1)「教員との関係」と(2)「職員との関係」(0.82)でした。

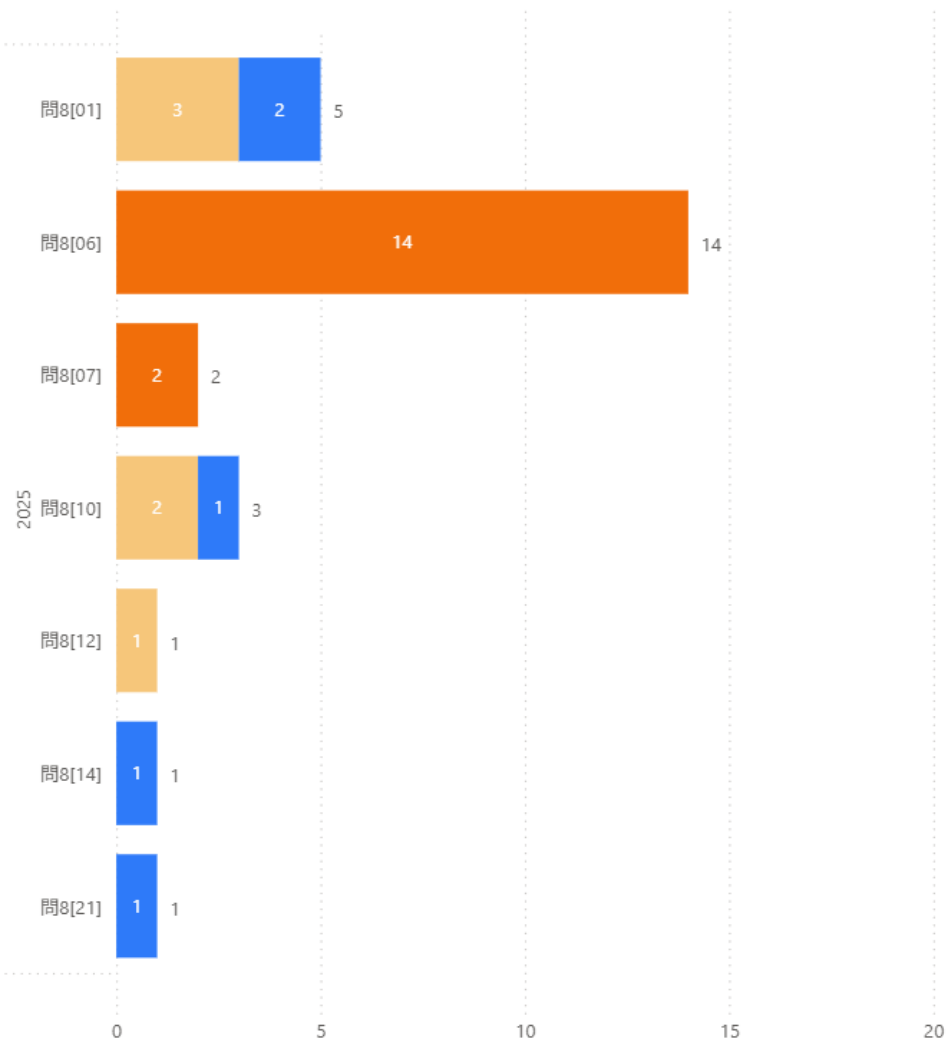
また、(3)「友人との関係」と(4)「研究室メンバーとの関係」(0.67)にも比較的強い相関があり、学内での人間関係が一体的に形成されていることがうかがえます。

さらに、(5)「学生生活満足度」は(4)研究室メンバーとの関係(0.55)と関連しており、研究室での関係性が学生生活全体の満足度に影響している可能性があります。

一方、(6)「本学を勧めたい」は教職員との関係とは中程度の相関があるものの、友人・研究室関係との相関はやや低く、推奨意向には別の要因も関わっていると考えられます。

大学在学中に取得した資格、検定

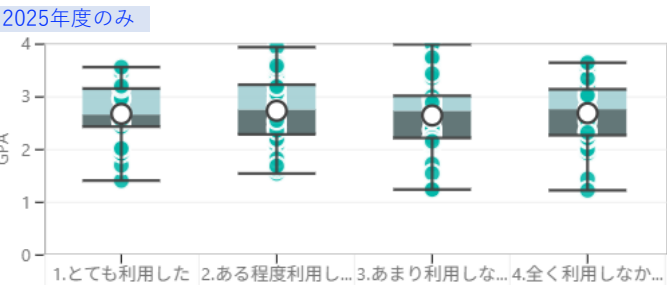
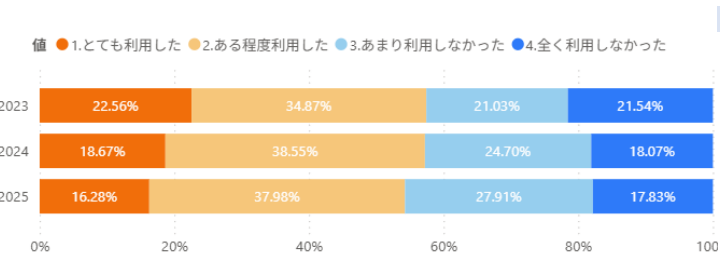
学科C ● AB ● BS および FB ● 臨床



1. 中級バイオ技術者
2. 上級バイオ技術者
3. 危険物取扱者（甲種）
4. 第2種 放射線取扱主任者
5. 第1種 放射線取扱主任者
6. 実験動物技術者（2級）
7. 実験動物技術者（1級）
8. 環境計量士
9. エックス線作業主任者
10. ITパスポート
11. 基本情報技術者
12. 応用情報技術者
13. バイオインフォマティクス技術者
14. 毒物劇物取扱責任者
15. 医療情報技師
16. 統計検定（2級）
17. 統計検定（3級）
18. 英検1級
19. 英検準1級
20. 英検2級
21. 英検準2級

その他	資格	件数
危険物取扱者	乙種第4類	2
漢字検定	準2級	1
心電図検定	3級	2
心電図検定	4級	7
心電図検定	（級不明）	1
食品衛生管理者		2
食品表示検定	初級	1
生物分類技能検定	3級	1
日本語能力試験	N1	2
日商簿記	3級	1
簿記	2級（種別不明）	1
ペット栄養管理士		4

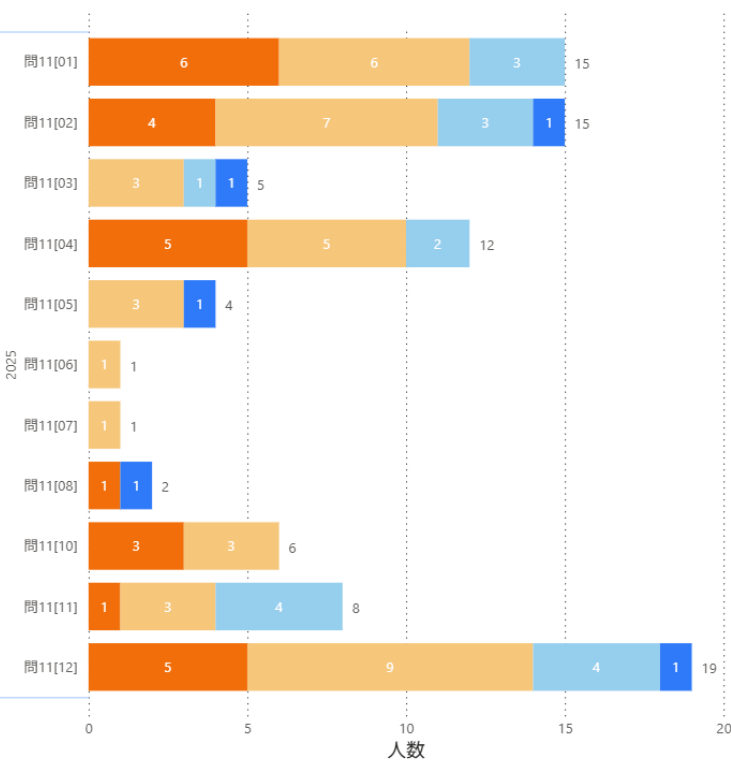
問10. 就職・キャリアサポートセンターの利用について



問11. 利用しなかった理由

問11 利用しなかった理由について選択してください。

学科 ● AB ● BS および FB ● MB ● 臨床

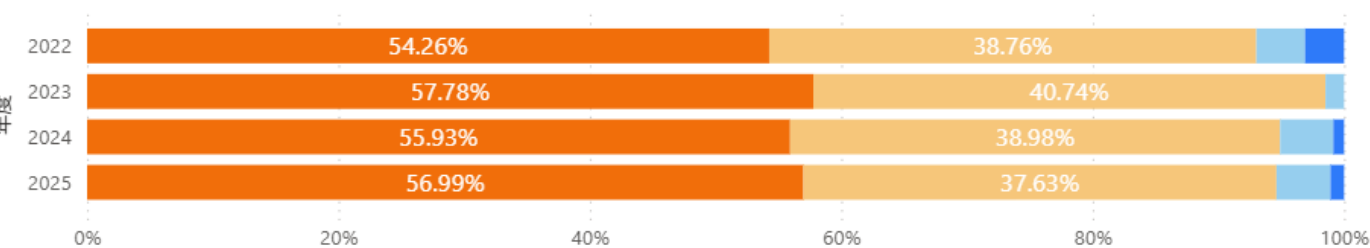


- 1.何となく敷居が高く入る勇気がないから
- 2.何を相談したらいいのかわからないから
- 3.利用方法がわからないから
- 4.就活は自力でできるため、利用の必要性がなかったから
- 5.支援を受ける前に内定をいただくことが出来たから
- 6.キャリアサポートセンターの担当者と合わなかったから
- 7.すでに利用したことのある人から利用しない方がいいと聞いたから
- 8.利用しても支援内容に期待できないと思ったから（または実際にそう感じたから）
- 9.否定されたり、責められると思ったから（または実際にそう感じたから）
- 10.家から大学が遠く、利用するのに時間がかかるから
- 11.就職活動そのものに前向きになれなかったから
- 12.その他

- ・別の会社の就活サポートを利用した
- ・担当の人と気が合わない
- ・ちょっと利用して決まってしまったから
- ・まだ就活を行っていないため
- ・進学予定だったから
- ・大学院進学のためそこまで考えられなかったから
- ・大学院へ行きなかった
- ・基本的に進学志望でありこれから利用していきたい。
- ・大学院に進学のため
- ・活動を始めていないから
- ・利用する理由がない
- ・大学院
- ・使う機会がなかったから
- ・大学院進学のため
- ・大学院に進学するので、行かなかった。
- ・院進で特別利用を考えていなかった
- ・大学院に進学するため
- ・進学の方で話が決まったから
- ・大学院への進学を決めていたから

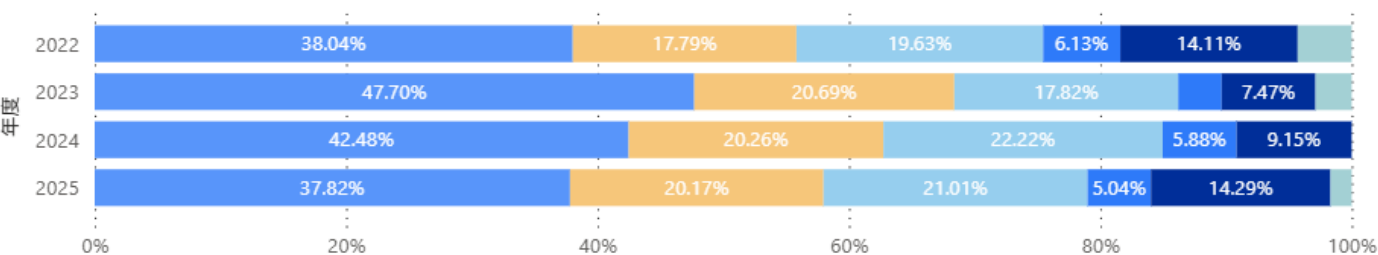
問12. 就職・キャリアサポートセンター職員やキャリアカウンセラーによる個別相談の満足度

値 1.満足 2.やや満足 3.やや不満 4.不満



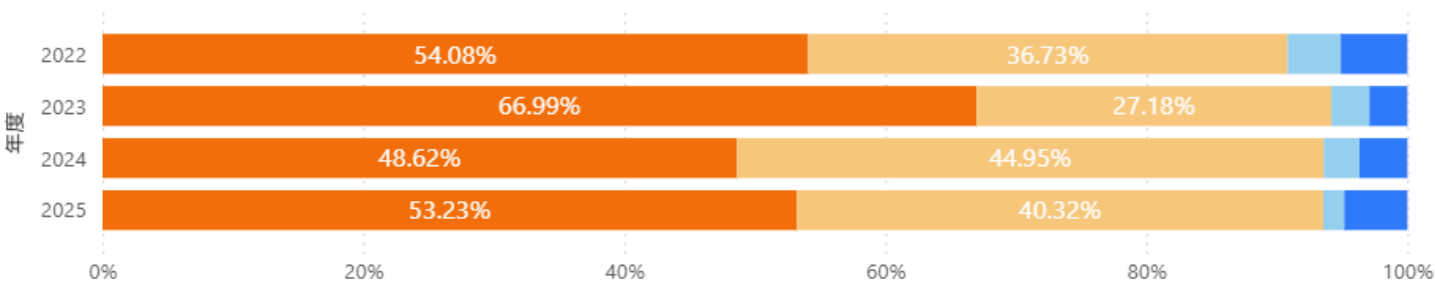
問13. 就職・キャリアサポートセンター職員やキャリアカウンセラーによる個別相談で重視する項目

値 1.添削指導 2.情報提供 3.就活のノウハウ 4.企業対応 5.信頼関係 6.その他



問14. 模擬面接の満足度

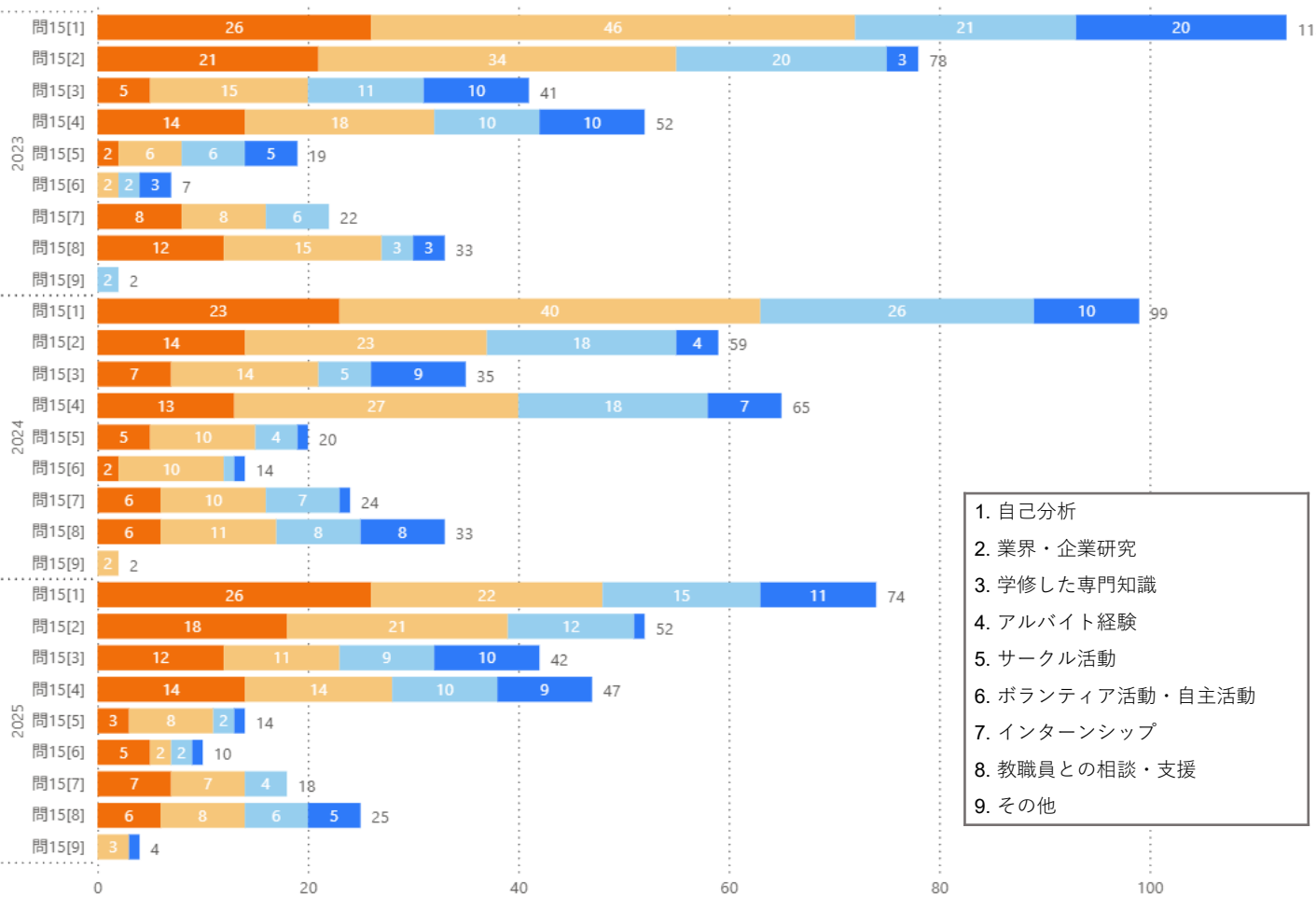
値 1.満足 2.やや満足 3.やや不満 4.不満



問15. 進路を決定する際に役立ったこと（複数選択可）

問15 進路を決定する際に役立ったことを選択して下さい。

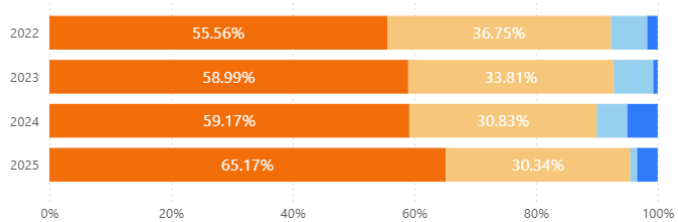
学科C ● AB ● BS および FB ● MB ● 臨床



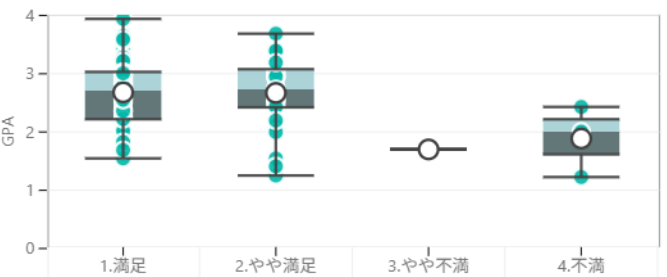
1. 自己分析
2. 業界・企業研究
3. 学修した専門知識
4. アルバイト経験
5. サークル活動
6. ボランティア活動・自主活動
7. インターンシップ
8. 教職員との相談・支援
9. その他

問16. 就職先に満足していますか

値 ● 1.満足 ● 2.やや満足 ● 3.やや不満 ● 4.不満



2025年度のみ



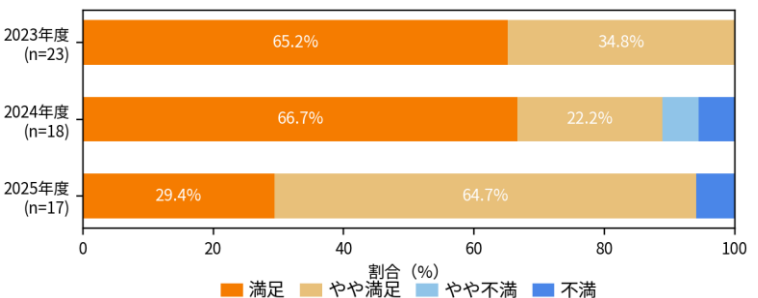
問16について

2025年度の就職先満足度は、「満足」が65.17%、「やや満足」が30.34%で、肯定的評価は95.51%となり、全体として高い水準です。過年度と比べても「満足」の割合は上昇しており、就職先への評価は改善傾向にあります。

一方、臨床コースでは2025年度の「満足」が29.41%と大きく低下しました。ただし「やや満足」が64.71%に増えており、肯定的評価全体では94.12%を維持しています。強い満足感は弱まったものの、全体的な不満が増えたとは言えません。

PICKUP

臨床コース 就職先満足度の推移



問17. 就職先を選ぶ際に重視した点（複数選択可）

学科C ● AB ● BS および FB ● CB および MB ● 臨床

